



座談会 青少年×総合型クラブ×スポーツ少年団

「青少年と考える運動部活動の地域移行」 Part.2

学校運動部活動の地域移行について、直近の中学校部活動経験者である高校生や大学生からの意見を聞くことで、子どもたちが求めている望ましい部活動の在り方について改めて考えることを目的としてオンライン形式の座談会を実施しました。

前回のメールマガジン9月号では「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part.1として、青少年の「運動部活動の地域移行」に対する印象や総合型クラブ、スポーツ少年団の取り組み事例などをお話いただきました。

今回はPart.2として、子どもたちのスポーツ環境やPart.1、Part.2を通しての総括などを掲載しています。Part.1については[こちら](#)をご覧ください。

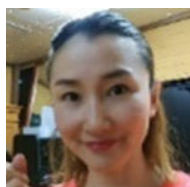
●座談会メンバー●



コーディネーター

小出 利一 氏

総合型地域スポーツクラブ全国協議会 常任幹事
総合型地域スポーツクラブ全国協議会 広報部会 部会長
NPO法人新町スポーツクラブ 理事長



渡辺 靖代 氏

スポーツリンク白川(岐阜県) クラブマネジャー
1999年から現在にかけて、運動部活動に関わる様々な人・団体と連携し、部活動の地域移行に取り組んでいる。



松原 三郎 氏

大沢ベースボールクラブスポーツ少年団(宮城県) 指導者
スポーツ少年団で20年間にわたり指導を行う。
現在は地元中学校の野球部と連携している。



真利谷 公佑 氏

森河内第1スポーツ少年団所属
大阪府リーダー会 会長(シニア・リーダー※)
大学3回生
部活動:テニス部



霧羽 優芽 氏

森河内第1スポーツ少年団所属
大阪府リーダー会 副会長(シニア・リーダー※)
高校2年生
部活動:剣道部

※リーダーとは、日本スポーツ少年団が育成している、各単位スポーツ少年団の活動における団員のまとめ役や、指導者と協力してチームを育てていく役割を担うスポーツ少年団員 <https://www.japan-sports.or.jp/club/tabid275.html>

●目次●

Part1

- 1) 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要について
- 2) 青少年にとっての「運動部活動の地域移行」に対する印象や期待
- 3) 総合型クラブの取り組み
- 4) スポーツ少年団の取り組み
- 5) 部活動連携に関する話を聞いた青少年の感想

Part2

- 6) 子どもたちにとって望ましいスポーツ環境とは
 - 生徒たちのスポーツ活動に対する保護者の望ましいサポートとは
 - 若い世代が地域に帰って来られる活動の場を残す
 - 青少年にとっての部活動の楽しさ
 - スポーツ少年団リーダーとして活動する中での苦労
- 7) 座談会に参加しての感想
- 8) 全体の総括

1)～5)は、メールマガジン164号(9月号)の「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part1に掲載しています。

【「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part1】

[https://www.japan-](https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R4/MM164_zadankai.PDF)

[sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R4/MM164_zadankai.PDF](https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R4/MM164_zadankai.PDF)

[Part1からの続き]

6)子どもたちにとって望ましいスポーツ環境とは

小出 スポーツ少年団は、平成元年ころは団員が115～116万人いましたが、今は56万人くらいまで減っています。私が高校生の時から高校生や大学生のリーダーを増やさないといけないと言われ続け、増えずに今に至っています。本来、スポーツ少年団は、中学生や高校生のためにつくった青少年団体ですが、必修クラブの制度化の影響で、徐々に小学生中心に変わってきました。今回の学校部活動の地域移行をきっかけに、総合型クラブだけではなくスポーツ少年団の若い人たちが、地域の中学生に声をかけて、こういうことをやろうよと言える環境ができていいのでは、と私は思っております。

ここからはフリーに意見交換しましょう。

生徒たちのスポーツ活動に対する保護者の望ましいサポートとは

渡辺 白川の例では、部活後のクラブの活動には必ず保護者の見守り当番というのがあります。クラブ活動開始時(17時)に地域の指導者が来れない時は、生徒だけの活動になってしまいます。そういった時に安全に活動をするため、保護者の見守り当番があります。これからクラブ活動の重要度が高くなると、見守り当番が少しネックになると思う保護者もいます。真利谷さん、轟羽さんのご両親は、お二人の活動にすごく協力的なのか、それとも親はノータッチで子どもだけでやっているのか、その辺を教えてください。

真利谷 単位スポーツ少年団(単位団)には父母会があり、保護者がスポーツ少年団の活動をサポートしてくれます。例えばキャンプの時は、父母会の方が食材の買い出しに行き、その間に子どもたちが野菜を切る準備をしたりします。全ての保護者が協力的というわけではありませんが、自分の親は協力的です。父母会の方たちにとっても助けられています。

轟羽 私の母も父母会に入っていて、行事などで手伝ってくれています。遠出になる時も父か母と一緒に車で連れて行ってくれます。ただ、父と母は共働きなので、平日は、そういうことが難しい時もあります。



松原氏

「合言葉はアワー・サンズ。子どもたちに注ぐ愛情はみんな一緒」

松原 親の会や当番があるから子どもにスポーツをやらせない、野球をやらせないというケースが実際にあります。

私は「アワー・サンズ(our sons=みんなの子どもたち)」という合言葉を大切にしています。保護者の方々も3年で入れ替わるので、一つのテーマとして、子どもたちに手を貸すのではなく、親の会は指導者のお手伝いをする集まりですよとお願いしています。「親の会として、お金は生まなくていいです、笑顔を生んでください、愛情を生んでください」というお話を、親の会があるときにいつも話しています。

来られない人が良くないのではなく、来る回数が多い親が偉いのではなく、子どもたちに注ぐ愛情はみんな一緒だね、というお話しをするようにしています。

私は、顧問の先生や手伝ってもらっているコーチには「何を言ってもいいですよ」と話しています。打ち方とか投げ方とかみんな違って当然。生徒たちにも言っています。「全部正解」って。その中でやってみて生徒がうまくなればそれでいい。というような考えを指導者の間でも共有しています。

小出 真利谷さん、靄羽さん、お二人とも大阪府リーダー会の会長、副会長という重責を担っています。お二人は地域の指導者になってもいいかなというイメージを持っていますか。

真利谷 なってもいいかなと思っています。楽しいし、これからも楽しくやっていきたいと考えているし、自分の楽しい経験を子どもたちに伝えたいです。指導者になれば、それがかなうのかなと思っています。深くは考えていませんが、このままいったら指導者になるな、ぐらいで考えています。

靄羽 真利谷さん達の行動がすごいと思っている立場なので、自分が指導者になることはまだ想像がつかないです。ですが、小さい子たちと接することが好きなので、この活動は続けていきたいと思っています。活動を続ける中で、今後指導者になるという選択も出てくると思います。

小出 真利谷さんは、テニスとスポーツ少年団の野外活動がメインです。テニスの指導者としても、そのように思っていますか。

真利谷 今までそんなふうに考えたことがなかったです。お話を聞いていて、おれテニスの指導者になるのかな、テニスうまくないけど大丈夫かな、そんな感じです。

若い世代が地域に帰って来られる活動の場を残す

小出 地域のスポーツって誰が支えていくの？となると、若い人たちに支える人が増えてくれないと、部活動が地域に移行されても、持続可能な形とは言えないですね。

渡辺氏

「町外に出た若い世代が時々でも帰って来られる活動の場を残すことで、若い指導者の育成につなげたい」



渡辺 白川町では27人の指導者に部活動の連携に関わってもらっています。自営業の方や、仕事の後に活動に間に合う公務員の方が多いです。若い世代に関わってもらうことは難しいのが現状です。白川町は高校も大学もないので、進学を機に町外に出てしまい、白川町に帰ってくる機会がありません。ただ、長期の休みを利用して実家に帰って来たときに母校に顔を出す高校生や大学生もいますので、指導してもらおうと「大学生が来た」と中学生のテンションが上がります。ずっと関わってもらうのが理想ですが、地域の現状をみると、月に1回とかでもいいので来てもらえる活動の場を残しておけば、懐かしんで来てもらえるのかな。将来的に若い指導者の育成につながるかどうか分かりませんが、活躍の場は残していきたいです。

小出 若い人たちに「気軽に帰れる場所が地元にありますか」と質問したときに、自信を持って「あります」と答えられる人は少ないかもしれません。



松原氏

「大人のエゴで体裁だけ整えても、子どもたちが一番の被害者」

松原 学校の枠を超えてソフトボールの指導をしたい人が隣町で教えたり、ブラスバンドを指導したくて自分の学校だけでなく隣町に行って指導したりとか、いろんな形があつていいと思います。

子どもたちが、やりたいスポーツをいかんなくできて、スポーツを通じて仲間との付き合いや頑張ることの大切さなどを学べる時間と場所を用意することが重要だと思います。部活動の地域移行については、大人のエゴで体裁だけ整えても、子どもたちが一番の被害者になってしまっては絶対に良くないというのが、私が一番言いたいところです。

小出 うちのバレーボール教室は複数の中学校から来ています。それがすごく楽しそうです。バレーボール教室は始めて21年経ちましたが、クラブで育った人が教えに来てくれています。「ここ(クラブ)に来るとほっとする」「一緒に体を動かすと気持ちがいい」と言ってくれます。

真利谷さん、靄羽さん、大阪府全体を見るのは難しいでしょうから、自分の地域を考えたときに、例えばテニスを、あるいは剣道を、学校という枠組みから外れてしまったとすると、気軽にテニスまたは剣道をしに行こうかなという場所がありますか。

真利谷 地元の自分が出た中学校であれば、気軽に行って教えることができると思いますが、それ以外のどこかのテニスコートで教えてくださいと言われても、抵抗感があるし、最初は行きづらいですね。

小出 やはり自分の学校が一番気楽ですよ。

真利谷 そうですね、懐かしいなという感じで行けると思います。

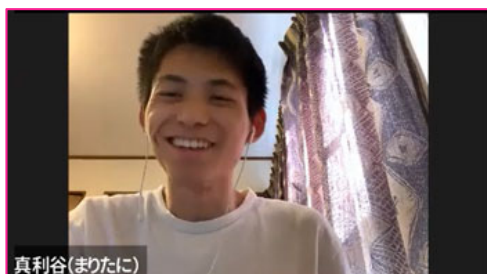
小出 靄羽さん、いかがですか。

靄羽 私は小学生の時は警察署を借りて剣道をしていました。そこでは警察官の先生の方に教えていただくので、私が教える立場になることはありませんでした。

小出 教えるということではなく、自分がやってきた場所に、気軽に行って、「今日は混ぜてください」という雰囲気があれば行けるのでしょうか。

青少年にとっての部活動の楽しさ

松原 部活動でテニスと剣道をお二人はやられてますが、テニスの楽しさ、剣道の楽しさって何だと思いますか。



真利谷氏

「部活動というのは人との交流を広げられるいい機会」

真利谷 まずは、友達や後輩、先輩とテニスの練習をして、その中でお互いを高め合い、自分が強くなっていく達成感を味わえる楽しさがあります。また、そこで生まれる友情とか、会話とか、遊びに行ったりとか、人との交流も大きいと感じます。他校に行って試合をして友達になった人もいます。部活動というのは人との交流を広げられるいい機会でもあります。

霧羽氏

「みんなで団結して自分がどういう役割をしたらいいか考え、みんなで高め合えるときが一番楽しい」



霧羽 剣道の試合方式は個人戦と団体戦です。個人戦は自分一人なので勝っていったら楽しいけど、団体戦(5人)の場合は5人が力を合わせないと勝てません。一人でもやる気がないとか、一人だけやる気があるという状況では、すぐに負けてしまいます。みんなで団結して自分がどういう役割をしたらいいか考えたり、みんなで高めあったりするときが一番楽しいです。

松原 スポーツって楽しまないとだめだと思います。楽しみ方って結構幅があり深さがありますので、指導する側が楽しさを感じる状況をつくってあげることが必要だと思います。そのような考えを持った指導者が指導にあたる、といった環境を作ることが必要なのかもしれない。

スポーツ少年団リーダーとして活動する中での苦労

渡辺 いろんな環境を整えるのが大人の役割で、活動の主体は子どもたちです。リーダー会の会長と副会長をやられて、団体の中で熱を持ってやっている子と、ちょっと冷めている子とか、温度差があるときのまとめ方はどうなのでしょう。困ったことはありますか。こうやったらうまくいったというようなエピソードもあれば、それぞれ教えてください。

真利谷 小学生を対象にキャンプファイヤーをした時に、その中で何人かは「何だキャンプファイヤーか」という感じになることがあります。そんな時は、みんなを楽しませるためにレクリエーション活動をしますが、自分が楽しんでいる姿を見てもらって、それを真似て楽しんでもらうのが、一番子どもたちを楽しませやすいのかなと思います。後で子どもたちが「楽しかった」とか、見ていた指導者から「今までで一番良かったね」と言ってもらったことがありました。自分が楽しんで、なおかつ、子どもを楽しませないといけないし、子どもたちのことを考えて自分のテンションを上げていけないといけないと感じました。

霧羽 子どもたちの中でグループができると、どうしても一人になる子が出てしまいます。私が一人になった子と一緒にご飯を食べようとするんですが、「一緒に食べよう」と言っても「おれはいいや」という感じになってしまいます。そういうときに自分がどう行動したら、その子は仲間外れにならずに、みんなと一緒にすることができるのかという点で、まだ解決策がなく苦労しています。

小出 リーダーになると、みんなが通る道ですね。真利谷さん、リーダー会の会長として大阪府全体をまとめるにあたって何か苦労している点がありますか。

真利谷 年々人数が減少していることに一番苦労しています。そもそもスポーツ少年団に入る子どもが少ないし、リーダーの数も減っています。リーダーは楽しいということを伝えたいのですが、伝えるためにどのようなことをすればいいのかなというのが課題です。

小出 真利谷さんの悩みは、他の都道府県のリーダー会の会長も同じだと思います。

7) 座談会に参加しての感想



松原氏

「学生のお二人は、勉強だけでは学ぶことができない、とても貴重なものを吸収している」

松原 コロナでなければ、とても素敵なお二人と実際に会って思いを感じ取ってみたいかったです。一生懸命、前向きにテニス、剣道に取り組んでいるだけでなく、リーダーの方でもいろんなことを吸収していると強く思いました。それは、勉強だけでは学ぶことができない、とても貴重なものだと思います。お二人とも、さらに頑張ってください。

渡辺氏

「若い世代のリーダーとして、子どもたちが集える場所を地域に残し続けてほしい」



渡辺 今回は中学の部活動がテーマでしたが、小学生の時にいろんな経験をした子どもが中学生、高校生になり大人になっていきます。今回リーダーの活動を聞いて、小学生にとってとても大切な居場所をつくっていると感じました。その活動を人数が少なくても大事にしていってほしいです。子どもたちが集える場所というのを地域に残し続けていくことは、これからの地域全体の課題だと思います。若い世代のリーダーとしてお二人に頑張っていていただき、将来、大人になったときにも指導者として活躍して欲しいと期待しています。



轟羽氏

「学校の先生以外の新しい方の指導を受けることはとても嬉しい」

轟羽 私の中学は中高一貫校で、地元の人との交流が少なく、スポーツ少年団でしか地元の人と話す機会がないので、この活動を広げていきたいです。学校の先生以外の新しい方の指導を受けることはとても嬉しいし、とても勉強になるので、それを早くやってくれたら嬉しいなと思いました。



真利谷氏

「次の世代の子どもたちに、どのようにして充実した環境をつくっていくか考えたい」

真利谷 大人の方々が子どもたちについて真剣に考えてくれているんだなというのを改めて強く感じました。自分たちも、その思いを引き継いで、次の世代の子どもたちに、どのようにして充実した環境をつくっていくか考えたいです。また、スポーツを通じて心を豊かにしていけたらなと思います。

8) 全体の総括

小出 みなさん、ありがとうございました。われわれの世代が不得意なことを得意とするのが真利谷さんと靄羽さんの世代です。SNSの発信など間違いなく、お二人の世代の方が能力は上です。歳が上の人たちが全ての能力が高い時代ではないので、年齢に関係なく地域としてどうするかを、皆さんに知恵を出してもらっていかないと、うまくいかないでしょう。

小出氏

「地域の中学生在が楽しくスポーツに親しめる環境を、各地域で創設すべき」



部活動の地域移行は、学校の部活動を地域に任すことでは収まりません。地域にいる中学生が楽しくスポーツに親しめて、真利谷さんと靄羽さんが感じたような印象に残るような活動に、地域全体で取り組まないといけないと思います。大人になっても地元で自分がやりたい種目に取り組めるような環境にしていけるためにも、各地域の知恵の出し合いだと思います。

その時に必ずキーパーソンになって主役として真ん中にいてもらわないと困るのは、中学生だったり高校生なんです。ですので、若い世代の意見を、大人が謙虚に受け止めることで、楽しい地域、楽しい思い出があるから帰ってきたいと思える地域になると思います。

スポーツ少年団には元々、団員綱領、指導者綱領があって、この綱領に近づけた活動にしていれば、そのような地域になるのだと思います。また、人材育成システムも、しっかりしたカリキュラムが整っています。私もスポーツ少年団リーダーとしてやってきた身からすると、総合型地域スポーツクラブだとか、スポーツ少年団だとか、そんな枠組みはどうでもいいから、思いがある若者が集まって「地域の活動としてスポーツや文化活動をするから、みんな一緒にやろうよ」と声かけやすい環境ができれば理想的だと思います。



小出氏

「学校部活動の地域移行は、地域と学校が一つにまとまって何かを動かすチャンス」

学校という枠組みが外れると、日本は気楽にスポーツに親しみ、体を動かす環境がなくなってしまう。日本は20歳代前半から40歳代までのスポーツをしている人口比率が低くなっています。働き方改革の問題もありますが、気楽にできる場所が少ないからだと思います。だから、今回の学校部活動の地域移行は、地域と学校が一つにまとまって何かを動かすチャンスでもあって、プラス方向にしてくれたら嬉しいです。

ここに集まった4名の方と今後も手をつないで、それぞれの地域がよいスポーツ環境となってくれたら嬉しく思います。



関連リンク(日本スポーツ協会HP)

●地域課題解決に向けた取組を行うクラブ紹介動画

[学校部活動との連携]

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1351.html#01>

●総合型クラブメールマガジン「部活動」関連バックナンバー

<https://www.japan->

[sports.or.jp/local/tabid1348.html?keyword=%e9%83%a8%e6%b4%bb%e5%8b%95&cmid=6449](https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1348.html?keyword=%e9%83%a8%e6%b4%bb%e5%8b%95&cmid=6449)